

**製品名: ミオメシン-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14339**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	MYOM1
別名	MYOM1; Myomesin-1; 190 kDa connectin-associated protein; 190 kDa titin-associated protein; Myomesin family member 1
遺伝子 ID	8736.0
SwissProt ID	P52179
免疫原	抗血清はヒト MYOM1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 824-873

**背景**

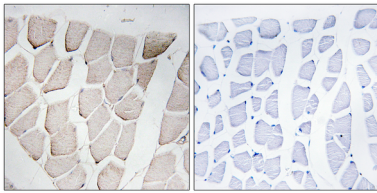
巨大タンパク質タイチンは、その関連タンパク質とともに、サルコメアの主要構造である M 帯および Z 板を相互接続しています。タ

イチン鎖のC末端はM線まで伸びており、見かけの分子量が190 kD (ミオメシン 1) および 165 kD (ミオメシン 2) のM帯構成要素と強固に結合します。このタンパク質、ミオメシン 1 は、ミオメシン 2、タイチン、およびその他の筋原線維タンパク質と同様に、フィブロネクチン III 型 (モチーフ I) または免疫グロブリン C2 (モチーフ II) ドメインと強い相同性を持つ構造モジュールを含んでいます。ミオメシン 1 およびミオメシン 2 はそれぞれ独自の N 末端領域を持ち、その後にはモチーフ I またはモチーフ II の 12 個のモジュールが II-II-I-I-I-I-II-II-II-II の配列で続きます。この反復配列領域において、2 つのタンパク質は 50% の配列相同性を示す。タイチン鎖の一端において、これら 2 つのタンパク質によって形成される頭部構造は、M バンドの中心まで伸びている。統合構造機能: 脊椎動物の筋原線維 M バンドの主要成分。ミオシン、タイチン、およびライトメロミオシンに結合する。この結合は用量依存的である。類似性: 5 つのフィブロネクチン III 型ドメインを含む。類似性: 5 つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。サブユニット: TTN/タイチンと相互作用する (類似性による)。PNKD と相互作用する。

## 研究分野

-

## 画像データ



MYOM1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。